

平成24年度 第2回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催
～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成24年度 第2回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成24年12月12日（水） 13：30～15：30

場所：高松サンポート合同庁舎 低層棟 2階 アイホール

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価(3件)

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の追跡調査(1件)

『除草を意図したコンクリート境界ブロック』について、活用現場で追跡調査を実施し、効果について確認を行います。

3. 平成23年度四国テーマ設定技術試行計画(5件)について

平成23年度に応募があり、新技術活用評価委員会にて選考した技術について、試行計画(案)の確認を行います。

4. 平成25年度四国テーマ設定技術応募テーマについて

平成25年度に技術募集する応募テーマについて確認を行います。

※「四国テーマ設定技術」とは、四国における具体的なニーズにマッチした、四国のこれからの発展に役立つ技術テーマ（災害対応技術、構造物保全技術、維持管理技術）を設定し、平成18年度より取り組んでいます。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成24年12月10日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

やまもと ひろひさ
山本 博久

(087-851-8061 内線 3451)

○ 施工企画課長補佐

いわさ たかし
岩佐 隆

(087-851-8061 内線 3453)

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

<事後評価>

『橋梁排水管「TNTフレキ管」(CB-030096-A)』

橋梁用排水管として使用する製品で、屈曲部において自在に曲げる事が可能なフレキシブル性を有する管を使用することにより、継手部を削減し、現場合わせで設置を可能とする技術である。

『ビューレイル(橋梁用ビーム型防護柵)(KK-090004-A)』

橋梁用防護柵の支柱構造を衝撃吸収可能型とし、車両衝突時における橋梁地覆への不可を軽減するとともに、スリムな支柱形状により景観性を向上させた技術である。

『ココピートオールド工法(KK-050032-A)』

ヤシ殻から繊維を除いたものを自然発酵させたココピートオールドと微生物改良資材を用いた土壌改良工法により、土壌が固結しにくくなり、透水性の低下も抑制され、植生の抵抗力が高められる技術である。

<追跡調査>

『防草を意図したコンクリート境界ブロック(CB-050041-A)』

コンクリート境界ブロックと他の構造物との目地部の防草対策として、自然の摂理である屈光性（芽は下向きには伸びない）を利用した技術である。

<試行計画>

『SAMMシステム(SK-070009-A)』

法面に施工された既設アンカーの残存引張り力の面的分布を求め、問題箇所の特定、健全性の確認が必要なアンカーを把握し、維持管理及び対策の必要性についての評価を効率的に行う技術である。

『再強フェンス(HR-110028-A)』

安全性の低下した落石防護柵を補強するもので、防護面にエネルギー吸収性能の優れた緩衝装置付きワイヤネットパネルを用いた落石防護工である。

『SGダンパー工法(SK-120003-A)』

既存の落石防護柵の端末支柱に取り付けられている索端金具を、緩衝機能を備えた金具に取り替えることで、落石防護柵の耐衝撃性能やエネルギー性能を向上させる技術である。

『T&C防食－塩害用－(HKK-110001-A)』

2種類の表面含浸材を使用し、ケイ酸塩系のA液により躯体表層部の緻密化を図り、シラン系のB液により表層部に撥水層を形成することで、塩化物イオンの浸入を効果的に抑制し、耐塩害性を向上させる技術である。

『コンクリート片のはく落に対する予防保全・補強工法(SK-110004-A)』

連続炭素繊維を格子状に織り合わせたシートをコンクリート面へ貼り付け、はく落防止を図るとともに、シート貼り付け後もコンクリートひび割れ状況の目視確認を可能とする技術である。

※ 技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

平成 2 4 年度 第 2 回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議事次第

日時：平成 2 4 年 1 2 月 1 2 日（水）13:30 ～ 15:30

場所：高松サンポート合同庁舎 アイホール

I. 開会

II. 挨拶 （委員長）

III. 議事

1. 平成 2 4 年度第 1 回新技術活用評価委員会の報告等

1－1 平成 2 4 年度第 1 回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

2－1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2－2 橋梁排水管「TNTフレキ管」

2－3 ビューレイル（橋梁用ビーム型防護柵）

2－4 ココピートオールド工法

3. 新技術の追跡調査

3－1 除草を意図したコンクリート境界ブロック

4. 平成 2 3 年度四国テーマ設定技術試行計画について

4－1 平成 2 3 年度四国テーマ設定技術公募技術内容

4－2 平成 2 3 年度四国テーマ設定技術試行計画（案）作成技術の詳細

4－3 平成 2 3 年度四国テーマ設定技術フィールド選定の前提条件

4－4 平成 2 3 年度四国テーマ設定技術試行計画（案）

5. 平成 2 5 年度四国テーマ設定技術応募テーマについて

5－1 平成 2 5 年度四国テーマ設定技術応募テーマについて

6. その他

V. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Technology Information System, 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところではありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

(大 学 5名)

松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)

吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)

山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)

高木 方隆 高知工科大学システム工学群 教授(国土情報処理工学)

渡辺 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授

(コンクリート工学)

(産 業 界 3名)

(社)日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長

(社)建設コンサルタンツ協会四国支部 企画委員会 委員長

(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料資源研究グループ長

(独)港湾空港技術研究所 研究評価官

(整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名